日緑工誌，J. Jpn. Soc. Reveget. Tech., 41(3), 417,（2016）

コラム・会員の自慢

株式会社ケイエフ
http://www.norimen.com

専務取締役　井上裕介　inoue@norimen.com

所在地　大阪府堺市堺区北三国ケ丘町８丁 7-7
連絡先　TEL　072-232-6060

1. ケイエフのあゆみ

弊社は，平成２年に法枠工用フレームを取り扱うメーカーとして設立以来，「環境・防災・リサイクル」をキーワードにあらゆる事にチャレンジし，今年で 25 周年を迎えました。その間，全国法面防災協会をはじめ，植物誘導研究会，セーフティークライマー協会，水位変動域斜面緑化研究会，楽石研究会などの設立に携わり，その工法に関する資機材・技術を提供してきました。

近年，緑化ニーズのトレンドとしては，獣害対策，自然回復や生物多様性保全に配慮した緑化工法などが挙げられますが，この度弊社では，それらのニーズに対応すべく「獣害防止柵　シカ矢来」「表面処理工　マルチプロテクション工法」を開発しましたのでご紹介します。

2. 獣害防止柵「シカ矢来」

「シカ矢来」は，シカやイノシシなどによる緑化斜面の食害，踏み荒らしを防止する獣害防止柵です。柵に奥行を持たせることで立体構造となり，害獣の飛び越えや潜り込みを防ぎます。「シカ矢来」は，パイプと金網を組み立てる簡単構造で，繊維ネットのようにシカの角が絡みつくことがなく，動物を傷つけません。また，柵は外側と内側に金網を設置する二重構造なので，転石などで一部変状しても侵入防止効果を維持します。柵の脚部はワイヤーで連結した一体構造となっており，積雪のグライド圧にも耐えます。

シカやイノシシの個体数が増加する中，獣害防止を講じずに植生不良となった法面工事が会計検査で指摘されるケースも報じられております。

「シカ矢来」は，斜面に最適な獣害防止柵を京都大学との共同研究にて模索し，開発した工法です。他に試験施工の成果を日本緑化工学会誌 41(1)，199–202.にも発表しています。

写真–1　施工直後　→　施工２ヶ月後

表–1　会社概要

創 業 年	平成２年７月
資 本 金	4,000 万円
代 表 者	杉野正則
事業内容	土木工事用資材の開発・販売

3. 地表面処理工「マルチプロテクション工法」

「マルチプロテクション工法（NETIS：KK-130052-A）」は，ワラやチップなどの生分解性繊維を地表面に吹き付けることで，浸食防止，汚濁水発生防止，飛砂防止，周辺からの植物侵入などが期待できる地表面処理工です。従来の緑化工では，植生が成立するまでこれらの効果を発揮できなかったのですが，「マルチプロテクション工法」は，施工直後から効果を発揮することができます。客土吹付や植生マットの，より安価な代替工法として適用することができ，工期も格段に短縮できます。

目的に応じて，浸食防止・緑化タイプ，仮設・飛砂防止タイプ，自然侵入促進タイプがあります。

今後は，アクセス困難な自然公園などにおいて実施する航空緑化工への適用も考慮し，吹付・散布による自然侵入促進工として確立させる所存です。

写真–2　吹付状況　　**写真–3**　吹付直後

写真–4　１ヶ月後　　**写真–5**　完成